

平成27年度学校経営計画

1 学校教育目標

「学力の充実 品性の陶冶 心身の鍛錬」

2 学校の特徴

本校は大正9年に創立された富山県立神通中学校を前身とし、今年で95周年を迎えた。「鍛錬・自治・信愛」の伝統的精神を継承し、健全な心身、優れた知性、豊かな情操を培い、民主的で自主性・創造性に満ちた人間の育成に努めている。

本校は富山市の中心街に近く、閑静な住宅・官庁街に位置している。また豊かな自然環境にも恵まれ、神通川の清流に臨み、立山連峰の雄姿を仰ぎ見ることができる。

高い能力と強い向上心を持つ生徒が県内の広い範囲から大勢集い、切磋琢磨に努めている。教職員は、生徒の学問的な探究心を満たし、生徒の進路希望をかなえるため、充実した学習指導を行っており、また、部活動や学校行事の指導にも力を入れている。平成26年4月には新校舎が竣工、本年5月には新グラウンドも完成し、学習環境はこれまで以上に整備され生徒は意欲的に学校生活に取り組んでいる。

平成23年度から理数科学科・人文社会科学科〔探究科学科〕が新設され、平成26年3月には、文部科学省の研究開発事業である「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の指定を受けた。また平成11年には中国東北育才学校と友好校提携協定を締結し相互交流を進めているが、より実践的英語力を高め国際性を養うために、平成26年度からアメリカの大学や研究機関での海外研修を実施しており、今年度はさらに、オーストラリアの友好校との交流研修も予定している。

3 学校の現状と課題

意欲的な学習を通して、自らの進路を切り拓いていく力を育てるとともに、学校行事や部活動を通して、豊かな人間性を育むことが本校の課題である。

SSH事業の実施においては、理数教育のさらなる充実を目指し、理数科学科の生徒を中心に「探究力」「科学的思考力」「自己発信力」を育成する。そのために各校務分掌や事務部が連携し、計画的かつ組織的に事業を推進すること、また保護者あるいは地域社会、他校へ普及することが課題である。

(様式2)

4 学校教育計画

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
(1)	校務運営 (Eその他)	目標	○全教職員が教育目標の達成を目指して連携協力し、共通の問題意識をもって取り組み、保護者と情報を共有して風通しのよい学校運営をすすめる。 ○教員がゆとりをもって、教育活動に取り組むことができる学校をつくる。
		計画	○教職員相互の協力態勢を強めるとともに、保護者や学校評議員に対して、本校の教育活動の状況について、定期的に説明を行う。 ○会議の回数の削減、会議時間の短縮、会議資料の縮減に取り組む。 ○円滑な校務運営と教職員間のコミュニケーションツールとして積極的にグループウェアを活用する。
(2)	教育課程 (A学習指導)	目標	○教育目標の実現を目指し、生徒の全人的発達を促す教育課程を編成する。 ○生徒の進路希望をかなえるため、学力の充実をはかる教育課程を編成する。
		計画	○学力の充実はもとより幅広い人間性の育成や健康、体力、安全に関する指導の充実をはかる教育課程を編成する。 ○生徒の学力の状況や大学入試に関する情報を的確に把握し、教育課程の編成に反映させる。
(3)	学習指導 (A学習指導) 重点1①②	目標	○生徒の学力を向上させる。 ○生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を養う。
		計画	○定期的に互見授業を実施し、授業の水準を高める。 ○生徒が計画的に学習できるよう各教科で定期考査にあわせた授業計画表を提示する。 ○新入生合宿を実施し、高校での学習方法・習慣を早期に確立させる。 ○少人数授業や個別指導を通して、きめ細かい指導を行う。 ○ICT教育を効果的に行い、理解を深める。 ○面接指導を充実し、学習意欲の喚起に努める。 ○探究的な活動を生かし、生徒に授業への意欲や主体性を喚起する。 ○課題を精選し、生徒が自主的に学習を進めることができるよう指導する。 ○全ての教科で学期毎に指導法を振り返り、今後の指導の改善に役立てる。 ○行事を見直し、授業時間確保に努める。 ○授業時間が不足する教科は、特別編成授業を工夫するなど授業時間の確保に努める。
(4)	進路指導 (C進路指導) 重点2①②	目標	○自己の将来像に連なる進路意識を醸成し、進路希望の実現をはかる。 ○より難関を目指す進学意識を育成する。
		計画	○「進路を考える懇談会」や「進路講演会」を実施し、進路についての理解を深めさせる。 ○「大学探訪」や「海外研修」の実施、および面接指導の充実により、進路実現をはかろうとする意欲を高めさせる。 ○SSHの取り組みをはじめ、大学等と連携した探究的な学習活動・体験の機会を利用し、大学で何をするかについて具体的なイメージを抱かせる。 ○既卒生への対策を充実させ、本校卒業後も高い志望に向かって学習に集中できる環境を構築する。
(5)	生活指導 (B生徒指導)	目標	○品性の陶冶、豊かな人格の形成をはかる。 ○「生活あつての学習」を基本とし、生徒に規律ある生活確立させる。
		計画	○全職員で生活指導（遅刻、服装、交通ルール遵守等）を日常的に行うとともに、個々の生徒の状況に応じた個別指導を行う。 ○明るい挨拶、正しい言葉遣いを実践させる。 ○さわやか運動、ボランティア清掃活動に積極的に参加させる。

(6)	心身の鍛練 (読書指導と 体力向上) (B生徒指導) 重点3①②	目標	○図書館利用や読書運動を通して、読書意欲を育て、読書習慣を確立させる。 ○生涯にわたる生活の基本となる体力を養う。
		計画	○「読書の時間」、必読図書・選択図書の選定、読書会の開催等読書運動を推進する。 ○読書教養講座やミニ企画展を開催する等、本に触れる機会の設定に努める。 ○生徒・教職員に対し、適時適切な図書・読書の広報や周知を行う。 ○1年次に読書記録ノートを配布し、3年間の読書活動に活用させる。 ○全学年、体育の授業時にサーキットトレーニングを実施する。
(7)	特別活動指導 (D特別活動) 重点4①②	目標	○学校行事を充実させる。 ○部活動を充実させる。 ○ホームルーム活動を充実させる。 ○生徒会活動を充実させる。
		計画	○競技大会・体育大会・文化祭・コーラスコンクール等の学校行事が、人間的成長のはかれる場となるように積極的に取り組ませる。 ○部活動が安全で活発に行われるように環境を整える。 ○ホーム担任の十分な援助・助言・指導のもとにロングホームを自主的に行わせるなど、ホームルーム活動の活性化に努める。 ○学校行事を主体的に運営させ、生徒会活動を活性化させる。
(8)	教育相談 (B生徒指導)	目標	○生徒の抱える問題、悩み等に適切に対処できる教育相談を行う。 ○悩みや問題を抱える生徒の早期発見に努める。
		計画	○普段からカウンセリングマインドを持って生徒に接するとともに、スクールカウンセラーの指導・助言を受けるなどして、個々の生徒に応じた教育相談に努める。 ○生徒に気になる変化が見受けられる場合は、学年・各部・保護者との連携を密にし、適切な教育相談を行う。
(9)	保護者との 連携 (Eその他)	目標	○保護者との連携を強める。
		計画	○1. 2学期末に保護者会を開くとともに、年に一度授業参観を実施する。 ○5月に学年懇談会、8月に進学懇談会(3年)を実施する。 ○夏季休業中に、必要に応じて家庭訪問を実施する。 ○教育・安全情報リアルタイム共有システムを活用する。
(10)	学年運営 1学年 (Eその他) 重点1②	目標	○本校生にふさわしい生活習慣・学習習慣を身につけさせる。 ○自分の進路について考えさせ、将来に向けて長期展望をもたせる。
		計画	○新入生合宿などを通して、生活のあり方、学習の仕方を指導する。 ○大学教授をはじめ社会人による講演会や大学生との懇談会、SSHにおける実習や課題研究などの機会を通して、進路意識の高揚をはかる。
	2学年 (Eその他) 重点2①②	目標	○進路意識の高揚をはかり、進路実現のための意欲と学力を身につけさせる。 ○中堅学年として、集団における自分の役割を自覚させ、自主性や行動力を育む。
		計画	○大学探訪や進路講演会で進路についての意識を高めるとともに、課題研究や大学実習で探究心を養い、学習意欲を向上させる。 ○学校行事、委員会活動、部活動などに積極的に参加させリーダー性や協調性を育む。
	3学年 (Eその他) 重点1② 重点2②	目標	○志望大学に合格する学力を身につけさせ、高い目標達成に向け粘り強く努力させる。 ○社会に有意な形成者として、リーダー性を育み、総合的な人間力をつけさせる。
		計画	○個々の学力に応じた指導を充実させる。 ○進路選択にあたり、高い志と継続的な努力によって必ず目標を達成するという強い意識を持たせる。 ○部活動や諸行事を通して、リーダーとしての自覚と責任を持たせ、広い視野を持ち自ら考えて行動する態度を養う。
(11)	国際交流 (Eその他) 重点5②	目標	○国際交流を通して友好親善を深め、国際性を養う。 ○実践的英語力を高め、国際社会で自己発信できるリーダーを育成する。
		計画	○中国遼寧省の東北育才学校との交流、オーストラリアのパートナー校との交流を進める。 ○アメリカの大学等での海外研修を継続して実施する。

(12)	広報活動 (Eその他)	目標	○広報活動を積極的に行い、本校の教育について、広く知ってもらう。
		計画	○中学校に対する説明会、及び中学生対象のオープンハイスクールを実施する。 ○学校案内パンフレットをより充実させるとともに、ホームページ（HP）を利用して頻繁に新しい情報を発信する。 ○学校行事の写真をPTA通信、生徒会誌、生徒会新聞、HPの更新などに有効利用するため、学校行事の画像データを集積する。 ○SSH事業についてホームページ等を活用して生徒や保護者、一般市民に広く知らせ、その普及に努める。
(13)	探究教育 (Eその他) 重点5①	目標	○探究的な学習を通して、探究教育の実践と研究を進める。 ○SSH事業を充実させ、生徒の「探究力・思考力」、「自己発信力」を育成する。
		計画	○探究的な学習に関する情報を収集・検討して内容をより充実させる。 ○SS基幹探究の授業内容を検討し、教材を作成する。 ○SS基幹探究、発展探究での発表内容を充実させる。また、発表会で他校との交流を深めるとともに、研究成果の普及等に努める。 ○課題研究を客観的に評価するための、ルーブリックによる評価方法についてさらに開発を進める。 ○東京大学、富山大学、富山県立大学と連携し、生徒個々の興味関心や進路に応じた大学研究室実習を実施する。 ○SS部（情報・数学・物理・化学・生物）での探究活動を充実させるとともに、「とやま科学オリンピック」などに積極的に参加する。また、小中学生への実験・実習の指導にあたる。

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成27年度 富山中部高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学力の向上	
重点課題	○授業の水準を高める。 ○家庭での学習時間を確保させる。	
現状	○授業力の向上を目指して互見授業等を行い、教科別授業研究会の充実に努めている。 ○生徒の学習意欲を高め、家庭学習時間を確保することが課題である。	
達成目標	①互見授業を行い、授業力の向上を図るための教科別授業研究会の実施回数	②平日の平均家庭学習時間 *生活実態調査による一人あたりの平均学習時間とし、全学年を対象とする。
	各教科 年間2回以上	4時間以上
方策	○互見授業を全教員に対し公開する。 ○互見授業終了後、教科別授業研究会を開催し、3年間を見通した指導法を築き、指導目標を共有する。 ○定期的に生徒の学力や学習実態を分析し、授業方法の改善をはかる。	○家庭学習時間の少ない生徒に対し、教科担当者や担任による個別指導を行う。 ○自学自習を促すプリントや、発展的課題を与えるなどし、主体的かつ意欲的に学習する習慣を身につけさせる。 ○新入生合宿で高校での学習法をしっかりと身につけさせる。 ○定期考査までの短期間の学習計画を示すなどして、「自学自習」の実践を指導する。 ○学習時間が足りている生徒に対しても、具体的な学習内容について適宜アドバイスを行う。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した C現状維持 D現状より悪くなった

平成27年度 富山中部高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	進路意識の高揚と進路希望の実現	
重点課題	○自己の将来像に連なる進路意識を醸成し、進路希望の実現をはかる。 ○より難関を目指す進学意識を育成する。	
現状	○全員が大学への進学を希望している。 ○自分の夢や希望を具現化するために、意欲的に情報を収集し活用する姿勢に欠け、進路選択が遅れる生徒が増加傾向にある。 ○大学などと連携した探究的な学習活動・体験の機会を活用する工夫が必要である。	
達成目標	① 大学探訪・進路講演会に満足した生徒の割合	②希望する進路の実現を果たした生徒の割合
	大学探訪 … 90%以上 進路講演会 … 80%以上	第1志望大学の合格率 …… 50%以上
方策	○多様な進路希望を持ち、選択の指針を必要とする2学年の生徒に対し、事前に希望を集約して要望の多い分野から講師を招き、10分野以上の分科会を設置し実施する。また生徒が具体的に進路を考えられるように、講師は生徒にとって身近な存在として、本校卒業生を主に依頼する。 ○進路や生き方を考える講演会を1学年で行う。	○面接指導や学年集会および進路に関する行事を通して、早い時期から高い進路意識を持たせるよう指導する。また3学年では個別指導を特に強化し、生徒一人一人が志望大学の要求する学力に到達するように努める。 ○探究的な学習活動・体験の機会を増やし、大学で何をするかについて具体的なイメージを抱かせる。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した C現状維持 D現状より悪くなった

平成27年度 富山中部高等学校アクションプラン - 3 -		
重点項目	読書指導・体力の向上	
重点課題	○読書指導を充実し、図書館利用の広報周知を行う。 ○体力の向上に努めさせる。	
現状	○生徒には、読書を通じて自らの生き方や社会のあり方などを思索する時間が必要であるが、学校生活が多忙化し、なかなか読書の時間が取れていない状態である。 ○行事が多く、特別授業期間に十分に読書の時間を設定することが困難になってきている。 ○体力の低下が危惧される生徒が増えてきている。	
達成目標	①生徒への読書、図書館利用を促す広報刊行物の年間配布回数及び読書時間の数	②2年次において持久走の自己最高記録を更新した生徒の割合
	広報活動10回以上、 読書時間 年間15時間以上（1・2年）	70%以上
方策	○図書の見聞録を月一回以上発行する。 ○読書時間を計画的に確保する。また、年2回「読書会」を行う。 ○読書教養講座の実施や「本の虫」などの発行を通して図書委員による主体的な活動を行い、図書館への理解を深めさせる。	○全学年、体育の授業時に、毎時10分間程度のサーキットトレーニングを実施する。 ○前年度の自己記録を参考に今年度の自己目標を明確にし、体育の授業や部活動などで意欲的なトレーニングに結びつける。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した C現状維持 D現状より悪くなった

平成27年度 富山中部高等学校アクションプラン - 4 -		
重点項目	学校行事・部活動の充実	
重点課題	○体育大会をより充実させる。 ○部活動を充実させる。	
現状	○体育大会へのあこがれが、本校への志望理由の一つになるなど、体育大会は、本校最大の行事として知られている。また、体育大会を通じて、生徒たちは人間的にも大きく成長している。 ○全校生徒に対し、いずれかの部に所属するよう勧めている。生徒は、学習と部活動を両立させるために、懸命に取り組んでいる。	
達成目標	①体育大会に充実感を持つ生徒の割合 *大会終了後に実施する、生徒会によるアンケート	②部活動に充実感を得た生徒の割合 *3年生全員を対象にした、8月下旬のアンケート
	80%以上	70%以上
方策	○体育大会の競技や応援の仕方について、生徒会を中心に改善を常にはかる。 ○競技の練習や準備活動が行き過ぎないように、適切な指導を行う。	○部活動への参加を積極的に促す。 ○限られた時間の中での、効率的な練習や活動を普段から考えさせる。 ○個々の生徒が、学習と部活動のバランスが取れるよう、ホーム担任と部顧問が連携を取って指導する。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した C現状維持 D現状より悪くなった

重点項目	「探究力」・「科学的思考力」の育成、「自己発信力」の育成	
重点課題	○SSH事業を計画的に運営・実施する。 ○海外研修により国際交流、学術交流を深める。	
現状	○これまで、旧理数科や探究科学科では、野外実習や課題研究などのさまざまな探究活動を通して、生徒の学問的な探究心の向上をはかってきた。本校がスーパーサイエンスハイスクールに指定されたことによって、これまでの探究活動の継続・発展とともに、理数科学科に一層の重点を置いた計画を立て「探究力」・「科学的思考力」の育成に効果的な指導法、評価法を開発する。 ○平成11年度より継続してきた中国遼寧省東北育才学校との交流に加えて、7月に第2回のアメリカ研修、3月にはオーストラリア研修を実施する。これらの研修を通して、グローバル社会で将来活躍できる「自己発信力」を身につけた人材の育成を目指す。	
達成目標	①野外実習、大学実習、課題研究に対するそれぞれの満足度 ＊各実習ならびに発展探究発表会（SSH成果発表会）後に実施するアンケート	②第2回海外研修（アメリカ）に参加した生徒の充実感および保護者の肯定感の割合 ＊帰国後の事後調査によるアンケート
	各90%以上	参加生徒の充実感 80%以上 保護者の肯定感 70%以上
方策	○野外実習や大学実習については、実習の内容や方法について十分に打合せを行ない、生徒が興味関心を抱き、積極的に参加できるよう工夫する。 ○発展探究発表会（SSH成果発表会）、三校合同発表会、基幹探究報告会の発表内容を充実させる。 ○SSH事業、行事でルーブリックによる評価を行う。	○事前研修を効果的に組み立て、研修の目的・研修内容を明確にし、参加者が各自の研修課題を持つように促す。 ○事後研修を行い、研修後の英語力の伸びをはかる。また、今後の自分の生き方あり方を各自が考え、それを実行に移そうとする姿勢を育てる。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した C現状維持 D現状より悪くなった